

あき缶リサイクル車

CZ11-10

取扱説明書



極東開発工業株式会社

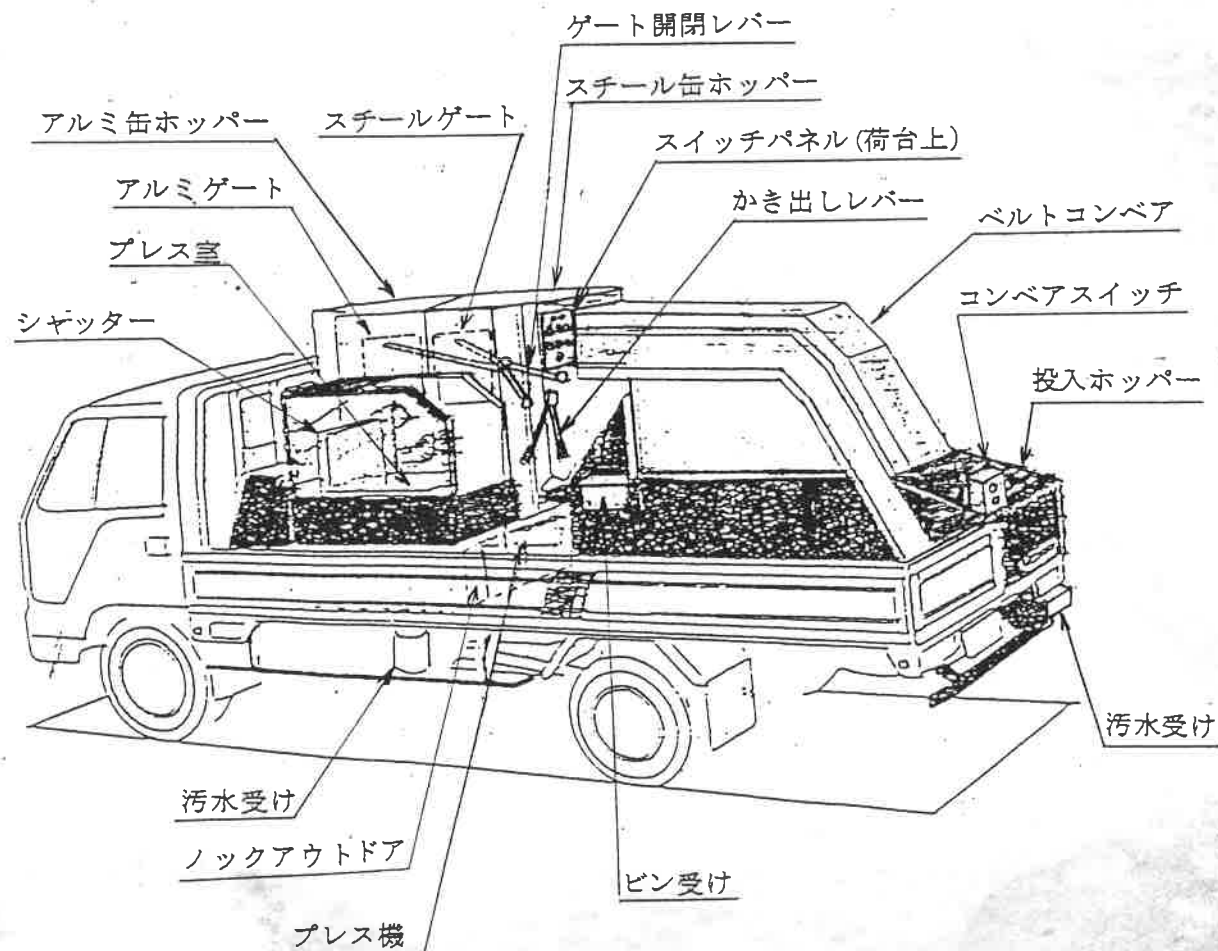
Q-GZ-K9314

はじめに

このたびは、極東開発のあき缶リサイクル車をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、あき缶リサイクル車の正しい取扱い方法と日常の点検、手入れを説明してあります。よくお読みいただいたうえ、いつまでもすぐれた機能が発揮できますよう本書を十分いかしてご使用ください。

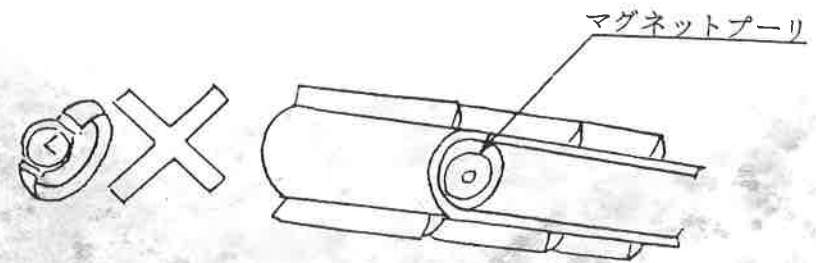
1. 各部の名称



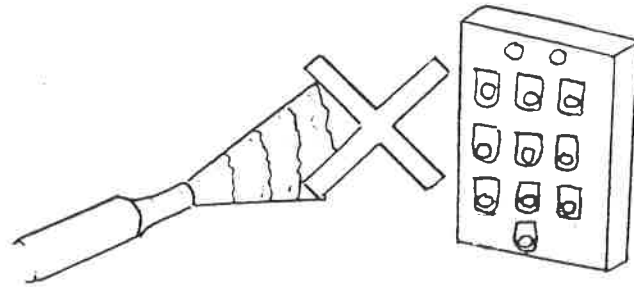
2. 取扱上の注意事項

安全作業のために必ず守ってください。

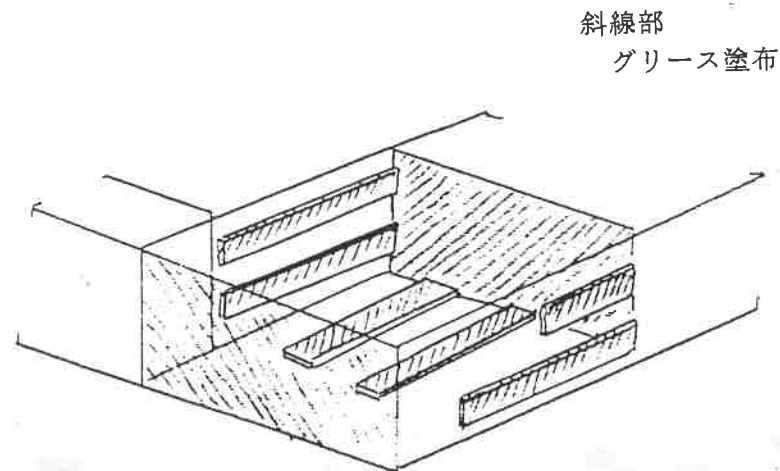
- (1) プレス機の中へは体や手足を絶対に入れないでください。
入れる必要がある場合は、エンジンを止めエンジンキーを抜いてから行なってください。
- (2) プレス機および自動ロックアウト部には手足を触れないでください。
- (3) 発火性、可燃性の物質（液体）の入った容器（ビン、缶等）や液体はホッパーに入れないでください。爆発や火災を起こす危険性があります。
- (4) 装置の作動スタート時には、周囲の安全を確認しながらスイッチ操作を行ってください。
- (5) この車両は自動販売機の小型缶専用ですので、500ml以上の空き缶は、投入しないでください。大きな缶を投入するとコンベアやホッパー内に詰まって作動しなくなる場合があります。
- (6) 空き缶以外のプレスは絶対にしないでください。
- (7) 車を停止させて車からはなれる時や、走行中は「PTO」を「断」にしてください。またスイッチパネルのセレクトスイッチは「停止」にしておいてください。
- (8) コンベア上部先端のマグネットプーリには時計等磁力の影響を受ける製品は近づけないでください。強力な磁力の影響で作動狂いや故障の原因になります。



- (9)汚水受け、プレス機内、ホッパー内の清掃は1日1回行ってください。
汚水受け等、汚れのひどい個所は水洗いしてください(但し、電気部品には水をかけないでください)。



- (10)プレス機のガイド部に10~20回のプレス作業につき1回グリースまたは潤滑油を塗布してください。



3. 操作方法

- (1)運転席内でサイドブレーキを引きエンジンをかけ、クラッチペダルをいっばいに踏みPTOスイッチを「接」にします。クラッチペダルを静かにはなすと、オイルポンプが回転を始めます。
- (2)コンベアスイッチを「正転」側にしてください。
コンベアが始動します。

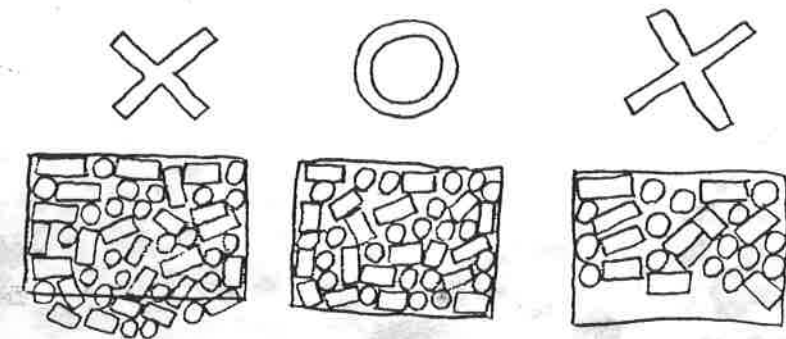


- (3)あき缶を投入ホッパーに入れます。あき缶は後方よりベルトコンベアで選ばれ、スチール缶はスチールホッパーへ、アルミ缶はアルミホッパーへ、ピンはピン受けに選別されて入ります。
- (4)選別されてホッパーにたまった缶はゲート開閉レバーで、ゲートを開けプレス室内に流し込んでください。缶の流れが悪い場合はかき出しレバーを使ってください。

1 回当たりのプレス量の目安

- ・アルミ缶 ----- プレス機内100%
- ・スチール缶 ----- プレス機内 90%

注)缶を入れすぎるとプレス機のシャッタが閉まらなくなるので入れすぎないように注意してください。また、缶の量が少ないとプレス品の形がくずれる場合があります。

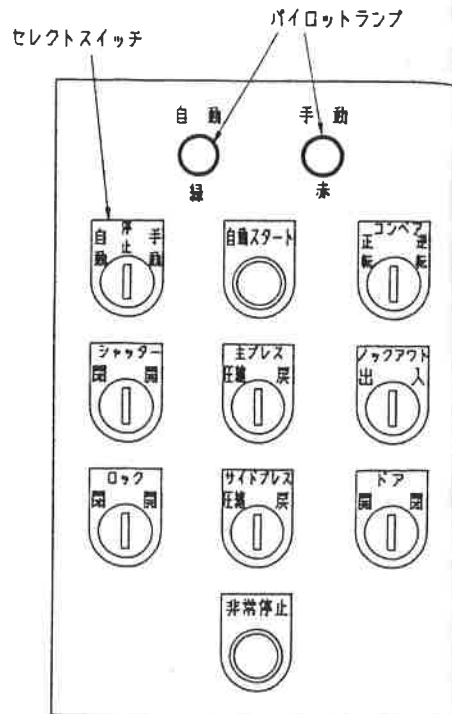


自動運転

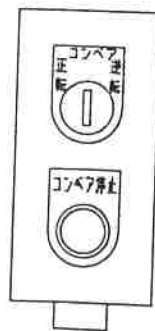
- (5) 所定量のあき缶をプレス室内に入れてください。
- (6) スイッチパネルのセレクトスイッチを「自動」にしてください。緑色パイロットランプが点灯し、自動運転の準備ができます。
- (7) 「自動スタート」ボタンを押すと、あき缶は自動プレスされます。まず、プレス機のシャッターが閉じ、プレス作動した後、プレス機後方のドアが開き、プレス品が後方にロックアウト(排出)されます。
- (8) 作動中、非常停止する場合はスイッチパネルの下部にある赤色「非常停止」ボタンを押してください。即座に停止します。
- (9) プレス終了後、プレス品を積載場所に移し、次のプレスを行う為に、再び「自動スタート」ボタンを押してください。プレス機が作動し最初の状態に戻ります。この時プレス機のドアが自動的に閉まるので、手足をはさまれない様に注意してください。
- (10) 作業終了後、セレクトスイッチを「停止」にし、コンベアを止め、運転席内のPTOを「断」にしてください。



スイッチパネル(荷台上)



コンベアスイッチ(荷台後部)



手動運転 (通常のプレス作動では手動操作は必要ありません)

- (1) スイッチパネルのセレクトスイッチを「手動」にしてください。赤色パイロットランプが点灯し、手動運転の準備ができます。
- (2) 各作動装置の操作スイッチを押してください。各々の装置が単独で作動します。
- (3) 手動運転によるプレス作動
 - ① 「コンベア」スイッチを「正転」側にしてください。コンベアが始動します。
 - ② あき缶を投入口に入れます。あき缶はコンベア上を流れ、スチール缶はスチール缶ホッパーへ、アルミ缶はアルミ缶ホッパーへ選別されて入ります。
 - ③ 「アルミゲート」または「スチールゲート」を開いて、ホッパー内にたまったあき缶をプレス室内へ送り込んでください。
 - ④ 「シャッター」スイッチを「閉」にして、シャッターを閉めてください。(全閉まで)
 - ⑤ 「ロック」スイッチを「閉」にして、ロックを閉めてください。(全閉まで)
 - ⑥ 「主プレス」スイッチを「圧縮」にして、自動停止するまであき缶を1次圧縮してください。
 - ⑦ 「サイドプレス」スイッチを「圧縮」にして、自動停止するまであき缶を2次圧縮してください。
 - ⑧ 「サイドプレス」スイッチを「戻」にしてください。(2秒程度)
 - ⑨ 「主プレス」スイッチを「戻」にしてください。(2秒程度)
 - ⑩ 「ロック」スイッチを「開」にして、ロックを開けてください。
 - ⑪ 「シャッター」スイッチを「開」にして、シャッターを少し開けてください。
 - ⑫ 「ドア」スイッチを「開」にして、ドアを開けてください。(全開まで)
 - ⑬ 「サイドプレス」スイッチを「圧縮」にして、自動停止するまで押ししてください。
 - ⑭ 「ロックアウト」スイッチを「出」にしてください。プレスブロックはプレス機内より押し出されてきます。

4. 本機の手入れ

- (1) 作業終了後、機器の水洗いは毎日行ってください。但し、スイッチ類の電気・電子部品には水をかけないでください。
(水洗いをしないと糖分付着により、害虫がよってきたり、悪臭も漂います。)

(2) 作動油量の点検

オイルタンクの油面がレベルゲージの規定範囲にあるかを点検してください。(38ℓ～40ℓが適量です。)
不足しているときは注油口から作動油を補給してください。
銘柄の異なるオイルを混合しないでください。

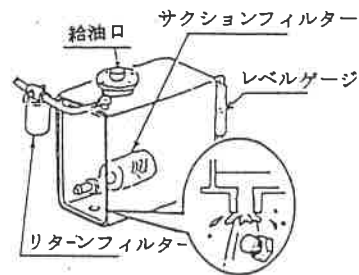
- (3) フィルターの清掃および作動油の交換
1年に1回必ず行ってください。

- ① 給油口カバーをボルトをゆるめて取りはずしてください。
- ② 作動油が汚れているときは、オイルタンク下部のドレンプラグをはずしてください。
- ③ タンク内部のフィルターを取りはずしてください。
- ④ サクションフィルターは洗い油または作動油で洗浄し、エアーを吹きつけて汚れを取ってください。
- ⑤ タンクの底にごみが付着しているときには、洗い流すかウエスなどでふき取ってください。

使用オイル

作動油は指定のものを使用してください。

	指定銘柄
粘度分類	VG32
出光興産	ダフニーネオフルイド32
モービル石油	ハイドロリックオイル32
昭和シェル石油	テラスオイル C32
日本石油	FBKオイル RO32
エッソスタンダード	テレソン 32
三菱石油	ダイヤモンド ハイドロフルード32



- ⑥ サクションフィルターを取り付けます。
- ⑦ 給油口カバーを取り付けます。
- ⑧ ドレンプラグを取り付けます。
- ⑨ 給油口から新しい作動油をレベルゲージの範囲内まで注入します。
作動油..... 40ℓ

- ⑩ リターンフィルターカートリッジの交換
リターンフィルターはヘッドにエレメントを内蔵したカートリッジタイプです。
交換は作動油交換時に合わせてください。

(4) 光電センサー

コンベア、アルミ缶ホッパーおよびスチール缶ホッパーに取り付けてある光電センサーの発光面および受光面が汚れていれば、きれいな布でふいてください。光電センサーが汚れている場合、誤作動を起こすことがあります。

(5) グリースアップ

図示の場所にはそれぞれグリースニップルがあります。1ヶ月に1度、各箇所をグリースアップしてください。

